

ポイ捨てやめよう

ごみ箱誘導アプリ開発

釧路公立大学3年の内海智宏さん(20)が、公共のごみ箱設置場所へ誘導するウェブアプリ「Trash Navigator」を開発した。1日から釧路港耐震旅客船ターミナルなどで開かれる「くしろ冬まつり」会場などで実証実験を行う。

(森崎博史)

釧路公立大の内海さん



開発したアプリをPRする内海さん

内海さんは富良野市出身。大学2年次に帰省した時、山林や道路などに多くのごみが散乱していることを発見。観光客や地域住民がごみ箱の場所が分からず、ポイ捨てしているのではないかと感じていたという。

3年進級時、主にシステム開発などに取り組む皆月昭則教授のゼミを選択。自身が体験したことやSDGs(持続可能な開発目標)の観点から、ごみのない地域を目指す目的で今回のアプリ開発に取り組むこととした。

内海さん自身、アプリ開発は初

冬まつりで実証実験

初めての挑戦だったが、IT企業「アイエックス・ナレッジ」(東京都)らのアドバイスを受け、約3カ月かけて開発。専用のQRコードを読み込むことで、現在いる場所から一番近い公共ごみ箱の位置を、矢印と距離で表示することができ

る。冬まつり会場で行う実証実験では、同イベント専用のごみ箱の場所まで、アプリ利用者を誘導する。10、11日には、札幌市で開催されている「さっぽろ雪まつり」のつどい会場に出向き、同様の実験を予定している。

内海さんは「冬まつり会場には2日間いる予定。見掛けたら気軽に声を掛けてほしい。実験に協力してくれた方にはプレゼントも用意しているので、協力してくれたらうれしい」と呼び掛けている。